

英国の環境・食糧・農村地域省がダーウィン・イニシアティブ受賞事業を発表

ダーウィン・イニシアチブは1992年に英国政府が設立した、自然環境保護と健康に重点を置き、低開発国への食糧の安定供給と安全を提供することを目的した助成金制度である。これまでに159か国で1155件のダーウィンプロジェクトに1.61億ポンド（240億円）が助成されている。2019年5月10日、第25ラウンド（25回目）で、受賞した低開発国の32件の自然環境保護プロジェクトに820万ポンド（11.5億円）が助成されると発表された。

おりしも、5月に入り、国連の「生物多様性と生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム」の報告書で、「地球上で、およそ100万種の動植物が絶滅の危機に瀕している」ことが示された。既に英国は担当省庁である環境・食糧・農村地域省（DEFRA）のダーウィン・イニシアチブで、これらの問題に対して英国政府として対応している。テレーズ・コフィー環境大臣は次のように述べている。

ダーウィン・イニシアチブはこれまでに、野生生物と自然を回復し強化する1000件以上ものプロジェクトを25年以上に亘、支援し続けている。これらの計画は、自然と環境を助け、きれいな空気と水、そして持続可能な食料を供給し、そして自然災害に対する回復力を与えている。



絶滅危惧種の象徴であるオランウータン（英国政府HPから）

第25ラウンド（25回目の2019年度の助成金）

ダーウィン・イニシアチブの適用の多くは、発展途上国や地域における動植物の絶滅危惧種の保護や生息地の保全、そして住民がサステナブルな生活が出来、食料の安定供給と安全性の担保に重点を置いた、英国政府の25か年環境計画の趣旨に沿ったプロジェクトである。第25ラウンドの助成金の恩恵を受ける32の受賞プロジェクトの内、以下が主なものである。

- ・キルギスタンの山岳地帯における地元コミュニティの暮らしに欠かせない野生チューリップの栽培および牧畜の将来性と回復力を確保するためのプロジェクト。
- ・ネパールでのラムサール湿地を修復に取り組み、生物多様性を保護し、生活用水の安全性を高めていくプロジェクト。
- ・スコットランドのエジンバラ王立植物園の協力で、タジキスタンにおける持続可能な植物栽培と利用はコミュニティの収入の増加と地元産の農産物へのアクセス、および農産物の生産性の向上をもたらすプロジェクト。
- ・マダカスカルで伝統的なアフリカ野菜の栽培で農家の農業生産性を高め、利益を確保し、コミュニティの食料の安定供給とコミュニティ外からの需要にこたえられるためのプロジェクト。
- ・カンボジアにおける生物多様性と生計の向上のための湿地の修復と強化は、持続可能な生計の促進と野生生物の生息地の回復を促すプロジェクト。

チェスター動物園

チェスター動物園は2007年以来5つのダーウィン・イニシアチブプロジェクトの主要なパートナーである。チェスター動物園のプロジェクトについて、コフィー大臣は次の様に述べている。

チェスター動物園は、大手保護団体であり、ダーウィン・イニシアチブの資金を有効に活用することによって、世界中の自然のために多くの成功した事例を示し、達成する方法を実証している。例えば、ボリビアでの野生動物保護に多くのノウハウを提供している。

チェスター動物園の経営責任者のマークピルグリム博士は次のように述べている。今、世界で約100万種の動植物が絶滅の危機に瀕している。しかし、ダーウィン・イニシアチブの資金とチェスター動物園の持つノウハウは、世界の野生生物の生き残りに立ち向かうのを手助けするのに不可欠である。地元コミュニティと一緒に行動し、ボリビアのクマ、インドのゾウ、ネパールのトラ等を保護している。このような保全プロジェクトは緊急かつ重要である。なぜなら、私たちの地球はそれらが生き残れる自然環境に依存しているからである。

英国は、1992年から発展途上国の自然環境保護事業に助成する制度をスタートさせ、今年で25年目となる。地球の温暖化や自然環境の破壊、100万種もの動植物の絶滅の危機に憂い、グローバルな視点から関係省庁が様々な政策や施策を、粛々と実行して、目立たないが控えめに国際貢献を行っている様子に敬服させられる。（了）